

### 話題

### 点滴

最近、点滴にまつわるニュースが二つありました。一つめは4月に東京の恵比寿ガーデンプレイスクリニックという診療所が点滴専門スペース「TENTEKI 10」を開設したことです。これはビジネスマンが予約や待ち時間なしに、わずか10分間で気軽に点滴を受けられるようにしたサービスです。

## 10分でできるセルフメンテナンス TENTEKI 10



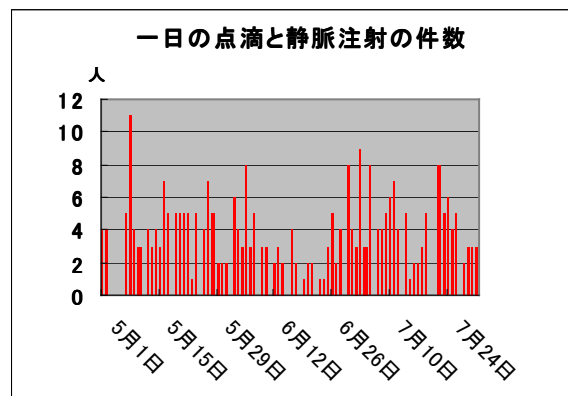
自費診療で行われ、料金は総合ビタミン点滴「ベリックパック」の2000円から始まり、体調や目的に合わせて9つのオプションメニュー(2500円～3500円)を組み合わせることができます。

このニュースがインターネットの英字新聞に載ったところ、何人もの外国人から辛らつな日本医療への批判が寄せられました。点滴が効くのは心理的な効果に過ぎない、そもそも日本の医者は薬を出しすぎる、患者は薬を飲みすぎる、などなど。

もう一つは三重県伊賀市の診療所「谷本整形」で点滴を受けた患者のうち1人が死亡、18人が入院するというショッキングな事件です。県は、点滴液が原因のセラチア菌による院内感染であり、多数の患者に対応するために、点滴を作り置きし、常

温で長時間放置したために菌が増殖したと結論付けました。これは衛生対策の不備がもたらした重大な事故ですが、一方で医師一人の診療所で一日に100人が点滴を受けている治療の実態も明らかになりました。県医師会長は、健康保険法では注射や点滴は「経口投与によって胃腸障害を起こす恐れがあるとき、経口投与をすることができないとき」などに行うとなっており、どうしても必要な点滴なのかを考えなければならない、と安易な点滴を戒めています。インターネットの掲示板では、多くの病院勤務医から事件の背景に開業医が不必要に点滴を行う風潮があるとの批判が寄せられました。

安全の観点から安易な点滴が好ましくないのは当然ですが、一方で多くの開業医がビタミン剤入りの点滴により患者さんの症状がその場で劇的に改善することを経験するのも事実です。当院でも疲労、食欲不振、感冒の時などに点滴やビタミン注射を行うことがあります。当院における最近3ヶ月間の点滴とビタミン注射の件数をグラフに示します。



5月の連休明けに10件を超えた日が1日あり、6月の点滴事故直後は絶対必要な場合以外は自粛したため減っていますが、平均1日3.9件でした。多いか少ないかは別にして、これが実態です。

この地域で内科診療所を営んで日々実感することは、点滴とビタミン注射は当院の患者さん達に最も即効性のある治療法である、ということです。患者さんの精神機能と身体活動が短時間で回復してくる様子を目の当たりにすると、心理的な効果などでは決して説明ができない“点滴”の威力を実感します。同じ診療所として、谷本整形が連日100人の点滴を実施するようになって行った経緯はよく理解できます。さて、ここで疑問が出てきました。外国ではこんなに効く“点滴”が行われていないのだろうか？調べてみたら、アメリカでも疲労や感冒の患者に点滴を行う開業クリニックがいくつもありました。

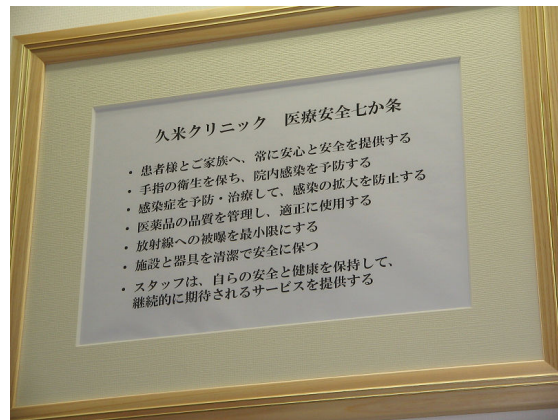


アメリカの点滴として最もよく知られるものに“マイヤーズ・カクテル”があります。ポルチモアの開業医であるジョン・マイヤーズ医師はビタミンやミネラルを含む静脈注射で疲労や急性感染症を治療して、多くの患者から信頼を寄せられていました。週1-2回の静脈注射を何年も、中には25年以上続ける患者もいました。1984年マイヤーズ医師の死後、点滴処方アラン・ガビー医師に引き継がれ、さらに全米の代替医療の医師たちに伝えられました。この点滴処方が“マイヤーズ・カクテル”です。気管支喘息、片頭痛、疲労、うつ病、感冒、アレルギー性鼻炎などをもつ患者の治療に使われ、米国では現在1000人以上の医師がマイヤーズ・カクテルを使用しているそうです。その中身はというと、マグネシウム・カルシウム・ビタミンB群・ビタミンCを蒸留水に詰めたもので、これは日本の開業医が行

っている“点滴”と何ら変わりありません。費用もマイヤーズ・カクテルの値段は約50ドルで「TENTEKI 10」の料金と同程度でした。

では点滴のどの成分が効くのでしょうか？1976年に抗酸化作用のあるビタミンCを点滴したら末期がん患者の寿命が延長したという論文が発表されました。以来、がん、感冒、心臓病などでビタミンCの効果を見る多くの研究が世界中で実施されましたが、効果を証明できる結果ではありませんでした。点滴の中の何が効いているのかは現在も研究者らによって探索と試行が続けられています。

このように“点滴”は、洋の東西を問わず、様々な病気で体調を崩して診療所へ駆け込んでくる患者さんに対して、現場の医師たちに試行され工夫されて最も迅速で効果的な治療として発達したアート(技法)だったのです。この優れたアートを長期にわたり安全に提供するためには、点滴治療の感染対策と医療現場の衛生管理が徹底される必要があります。当院では、この機会に院内医療安全管理指針に基づいた独自の「久米クリニック 医療安全七か条」を作成し、処置室に掲げました。



開業理念に沿い、今後も安心と安全を第一に考えた点滴サービスを提供してゆきたいと思えます。

### 歳時記

猛暑です。正午には太陽が真上から照りつけて日陰は無く、アスファルトの照り返しも強く、10分歩いただけで体力を消耗します。外出時には帽子と飲み物を忘れずに。点滴は最後の手段です。